

大正六年九月五日發行

婦人と子ども

第十七卷
第九號

フレーベル會

婦人と子ども

第十九七卷
號

目次

弘前の栗の實.....久留島武彦

幼稚園の遊戯に就て.....土川五郎

老嫗昔がたり.....北野京二

朝鮮幼兒保育苦心談.....京口さだ子

三市聯合保育會提出遊戯及歌曲(三).....京都都市保育會

雜錄

日本手幼年

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い嘶とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雑誌です。殊に毎號教育的な手技附録を添えます。

本誌は、玩具とお嘶との興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となる。

定 價

壹冊 拾二錢 □半年 郵稅共七拾五錢
郵 稅 壱 錢 □壹年 同壹圓四拾四錢

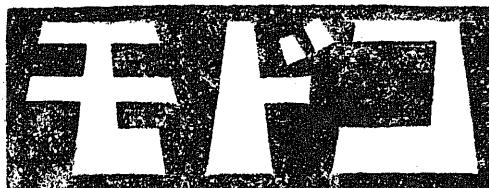
御大典記念畫報
皇族畫報
少女畫報

日本幼年

(東京京橋銀治橋外
振替東京四九〇)

東京社

顧問高島平三郎先生



色特大四の誌本

繪が叮嚀で美麗なこと
お話が易しく面白いこと
片假名のみで讀易いこと

はじめて教育的なこと

子供繪雑誌は玩具であると同時に教科書であります。お子様方がコドモを御覽になつてゐる間に物事を覚えお行儀がよくなること不思議な位です。

婦人と子ども

大正六年九月五日
第十七卷第九號

弘前の栗の實

(此の一文は東北旅行中の久留島氏より倉橋幹事にあてられたものです)

青森の海岸より 久留島武彦

節は立秋に入りましたが暑さはまだ／＼これからだぞといひさうな日の色を見せて居ります。

今年は廣島縣の郡部から始めて、神戸、大阪、岡崎と各地の子供の會やら先生方の講習會やらにはりまして、更に秋田縣にうつり、毛馬内（けまない）といふ名前からして既にアイヌ語系の著しい昔の蝦夷地の村落から大館、鷹ノ巣とうつつて、弘前市に出ましたのは一昨十三日の午後でした。

こゝでは弘前青森聯合の保母會に何か話せと云ふ事でしたので、其の會合に臨んで見ると、大分

小學校の先生方や市の學務課の方や土地の有志なども見へて居たので

幼稚園は小學校入學の豫備門でせうかと云つたやうな趣旨のお話を致しました。聊か脱線の氣味もありましたが、斯云ふ時こそと思つたので、大に保育事業の重大なる立場と保母の位置の尊く高きものであることを高調して、ことに現時の新舊日本の過渡期に於て家庭と社會に對する幼稚園の使命を説いて見ました。

私の話はどんな印象を參會者に與へたかは分り

ませぬが、私は此の席で頗る有益な、而して趣味深きお話を參會者の一人で土地の名望家で、醫師で、代議士で而して幼稚園を經營して居られる伊東重翁から聞く事の出來たのは非常に仕合せでありました。

其の話は栗の實と園児

とても題するやうなお話をでした。

此の栗の實のなる栗の樹は、伊東翁が園長である養生幼稚園の後庭に茂つて居るので御座ります私もあまり興深きお話であつたので、出發の前車夫を急がせて一寸のぞいて來ましたが、一本は三抱へもあらうと思ふ幹の大きさで、その高さは五六丈もありませうか、一本はこれよりも少し小さい幹ですが、二抱へばかりと見へました、そして木の高さは似たやうなものでした。

此の二本の栗の樹は、五六間はなれて立て居るので、二百坪ばかりの運動場には誠に適當な日除けになつて現に此の下では私が見た時に、七八人

の多分同窓生でせう、ジャンケンをやつて遊んで居ました。

始め伊東翁が此の屋敷を幼稚園に譲受けた時先づ眼にとまつたのは此の二本の栗の樹でした、イガ／＼の大きなものが、無心に遊んで居る園児の頭の上に落て來たならどんなに困るだらうと思つた時截て丁はふと考へたのですが、さてよ、其のイガ／＼の落る時は一年の内僅に一月位の間でその他には日除けにもなれば、庭の趣きもつくる、ことに栗の實はお伽の界世に無縁故では無い。此の儘に残して置うと、伐る事は止めにしました、ところが秋の末になると、栗の實がホロ／＼ホロ／＼とこぼれる、園児の喜びはたいたるものですが、ともすると、生でかむ者がある、ポケットに入れて、そつと拾つてかへるものがある、伊東翁はこれを見ると、これは此の間に悪い癖をつけるやうな事になるかも知れぬ。幸ひ二本の栗の實は大きな桶に餘るほど落ちる、これを園で茹て、園児

と同窓生とに食べさせたら喜びもしやうし、樂しみにもなり、在園児と卒業生とを結付るよすがともなると斯う思付かれると、それから秋が来て栗の實が落ちるやうになりますと、伊東翁は卒業生を呼で来てイガをむかせる、園児はその中の實を拾集める、斯して毎日寄せて置いては、これをゆでて子供達共々一日樂しく親睦會を開くのださうです。左様なると面白いもので、今迄そつと一つ二つ拾つて持て還つた子供が此の一日の樂しみの爲に、持て還らなくなつて見つけただけは先生、こゝにもありました、まだありました」と先生に渡すやうになりましたと云ふ。

伊東老園長は此の話を私にして聞かせながら、いかにも嬉し氣に、背中をまろくして、私の顔をのぞき込みながら、「樂しいものですよ」と云ひ足されました。

私は、このお話を聽て居る内に、いつか私が卒業生にもなり、園児にもなつて、栗のイガをむい

て居るやうな、寄せて居るやうな心持になつたのでした。子供達の心もちになつたならどんなに嬉しい一日でせう。

尙聽けば此の養生幼稚園の保育室になつて居る古い建物は、嘉永三年の春吉田松蔭先生が北邊の沿海防備の實際を視察せん爲、此の津輕領に入られた時、時の儒者で園長と同じ伊東姓の方が此の家に住で居られたので、其の人を訪ねて會見された座敷であるさうです。

此の由緒ある家に、此の心ある園長の膝の元に集ひて、籠に盛られたゆで栗をたべながら、一日樂しく過す子供等はどんなに仕合せかと思ひました。

此の園に働く保姆諸君は、どんなに嬉しいでせう。

大分久しく御沙汰をしましたので申譯かたぐこの美しい話をお送り致します。私はこれから北海道と樺太とを見て、東京の子供の顔を見るのは九月の末頃でせう。

左様なら、お大事に。

幼稚園の遊戯に就て

麹町幼稚園長 土川五郎

一、表情遊戯の缺陷と其改良

現今幼稚園で行はれて居る集團的遊戯の重なる

ものは表情遊戯である。

この表情遊戯は種類として隨分澤山あるけれども一幼稚園としては二三十種に限られて毎年々々繰返す方が大部分である、而して毎日々々お定まりの如く、鳩ばつばつから金太郎それから何次に何と千變一律であるが故に、先生も氣分から、からだ迄ゆるみ切つて緊張の様子が更に見えぬ幼兒は「そら又か」といつた様な顔付で始める、そして其動作中にさもうれしさうな笑顔は少しも見えぬ、暫くすると止めるのもある、あくびも出る、こゝに於て先生の冷靜な觀察を要する、果して幼兒は愉快を取りつゝあるか、眞の遊戯の意味が表はれ

て居るか、必ず思ひ半ばに過ぐる感があること、思ふ。

そもそも何故に表情遊戯が幼兒に飛び付かれる様に歓迎せられるか、かくの如く一般からも、厭きられて、何となく物足らぬ感じを起さるゝ様になつて來たか、こゝを探究して見る必要がある。私は少なくとも次の五點が其主因ではあるまいかと思ふ。

第一、表情的動作即ち運動が萎縮して居る。

元來幼兒は原始的であるから基本筋肉を思ふ存分に使はねばならぬ、十分に大なる運動をすればそれによつて一層大なる快感を得るものである。然るに之と全く正反対に其動作が小くて且萎縮して居る、この爲めに快き感情も起らない。これ幼兒

に喜ばれない第一因である。

第二、活動量に不足の感がある。

幼兒は活動の最も盛んなものである、動物は幼年なるが故に遊ぶにあらず遊ばんが爲めに幼年期があるといふ詞は眞理である。而して幼兒の最も

好むものは跳ねる、飛ぶ、駆け廻ることである、歌を唱ひつゝ表情をなす遊戯には此種の運動はやりにくひので自然に其分量を減じ若くは使ふ譯にゆかぬから現今表情遊戯には此の運動は極めて稀である、幼兒の最も好む否自然に身體發育上要求する此の運動を避けねばならぬ所から幼兒の要求に對し満足を與へられぬ。これ其第二因である。

第三、運動感覚を忘れて居る。

表情遊戯を作るに最大切なのは運動感覚である、感情から筋肉を動かすと共に運動感覚から情緒を惹起することが出来る。此の重要なものによつて其氣分も出る、其感も強める、これを考へずして其

歌に含まれた氣分を持たせ様といふ事は木によつて魚を求むるに似て居る、其氣も出でず其感も浮ばずしては遊戯者自身面白くないのは無理でない、これ幼兒に適しない第三因である。

第四、表情が主知的に傾いて居る。

歌の意味が自然と動作に表はるれば情緒がうまくそこに出で來るもので、情緒的に其動作を付けると、それは自然と合致して如何にもよい氣持ちになり自から其氣分が出て來るものである。然るに之れを表出するに困難なる個所があると、先生が寄合つて種々と苦心し、こうしたらよいか、あ、したらどうかと考へに考へた末は不自然なるものを案出する、知らず識らず主知的に落入つてしまふ、而してこれを幼兒に與へて見ると骨が折れて面白味がなく遊戯の本質と大層懸けはなれた物となる、之れ幼兒に適しない第四因である。

第五、歌と曲との不適合

歌へば歌ふ程何とも云へぬ味のあるものと歌ふ

に従つてあとに糟が残る様で何んだか砂利をかむ様に感するものと此の二通りがある、而してこの擇擇がよく行はれて居ない事がある、何かよいものをとあさつて居る時は、擇ぶ目がやゝもすると低下するので後者の方に札の落ちることがある、幼兒を忘れ先生自身のみ大に感心して文學的にも拙劣で、しかも長きに失した様のものを擇び出す加之近來の歌詞はどうも面白くないのが多い、幼兒に何等の喜びも起らす美しき感じも起らぬ。

聽覺から入る音響が如何にも其氣分を生み出す様な、幾度か繰返すに従つて面白さが増して味ひがあるといふ様な曲が少ない。

歌詞に曲を付すると其歌の意味氣分を表す外に其詞の發音調子にも合せねばならぬ、此の點に捕はれて、表情を爲すに都合よい調子といふ事が忘れられてしまふから、其動作と曲とが一致して行かぬ、曲が自然と筋肉を動かす様な妙味(遊戯の)が缺けて居る。現在幼兒に與へて居る歌曲で其が

擇擇十分に行はれて居ないものがある様に見受けらるゝこれは其第五因である。

以上述べ來つた五つの原因がある爲めに表情遊戯が物足らぬ事になつて來たのではあるまいか、表情遊戯の改良を要する點は實に茲に存在して居るのではあるまいか、

要するに表情遊戯は其歌曲の幼兒に適したるもので且表情に最都合のよいものを擇んで其表情の仕方を自然的に表情的に然も幼兒本位に表出させたい、而して其運動が基本筋肉を働かして思ひ切つて大なるものでなければならぬ、且つ幼兒が表情をなす事によつて其歌の意味其氣分が持來さる様に運動感覺を考へて貰ひたいと思ふ、尙出來得るだけ其表出が體育方面に利のある様に仕向けて欲しい、併しこれに偏ると優雅、自然と背馳する所が出来るから、體育的にして然かも表出に有利であるものに限らねばならぬ。

二、遊戯の傾向

現今我が保育界に於て集團的遊戯としては表情遊戯の外に三種ある、一つは歩み方を曲に合致せしめて巧みに足の運動をなさしむる仕方ともう一つは外國のフォークダンス Folk Dance であるこれら等は或種の幼稚園に限られて行はれて居る、尚一つは幼兒全體が同じ動作をするのでなくて、幼兒を幾つにも分けて各役目を異にして、此等の組が各遊戯の一部を受持ちて一つの遊びをなす、これも行はれて居る範囲が一小部に限られて居る。此の三種の遊戯は全國の幼稚園に對しては至つて微力なものである。

第一の曲と歩み方を一致せしめ、曲が變ると直ちに歩み方を更へる、之れにはまた快適な氣分を起させる様な曲を擇ぶ事が缺けて居る。唯曲が動作を更へる合圖となる位の程度にある、従つて幼兒の自身の快樂よりは寧しろ見るのが感心をするのである、第二のフォークダンス即民踊は其曲に中々よいのがある併し動作は何百年を経過する

間に風俗を異にした文化趣味が加はつて原始的な所が影をうすくして來て居る、それ故に其儘我國に移すのは考へものであるし幼兒にはもつとも原始的でありたい。第三のは少數の幼兒で極めて落ついた遊びとしてはよい點もある、之れに歌が伴ふのであるが其歌と曲とは純日本的にはつてないから、情を表はすには適切でない、こゝに改良の餘地がある、又活動といふ方面から見ると頗る不十分で陰氣な遊戯で且主知的な所がある。

以上の遊戯が何れも満足の出來ぬ點があるとすれば、之れが改善を計る事が急務であると共に現在及將來に於て大勢の赴く所をも考へ、且一般の要求も參照して行かねばならぬ、

今や教育界の主たる問題は戰後の教育は如何にすべきかと云ふ事である。此問題に於て何人も異口同音に唱ふるものは國民の體育である、既に小學校は多大の費用を投じて體育上の施設をして居るかゝる時に際しては兎角幼稚園は小學の影響を

受け易いものである、聞く所によればある幼稚園では表情遊戯については前に述べた様に倦きられて體操の一部を加へた所もある。又將に加へんとして居る所もあるといふ事である、若し果してこれが事實であるならば保育上由々敷大事と云はねばならぬ。

なる程近頃識者の間には情的方面と體育上と及び眞の遊戯の意味から考へて從來の遊戯の價值について疑を挿んで来る様になつて來た、のは事實である而かも一面には體操熱が盛になつて殊に小學に於て最も甚しきを見るに至つては、保姆諸君もこれを如何にすべきやと大に苦慮せられて如上の如く體操をかつぎ込む様な事にもなるであらう乍併如何によい物でも、精撲された物でも幼稚園としては保育といふ胃囊とよく消化して後でなければ幼兒には與へてはならぬ。

抑も體操は意志的のものである。精神を休むるものではない、寧ろ過勞するものである、而かも身體

の發育未だ十分ならざる幼兒には到底之れを課すに堪えられぬ、小學兒童すら尋常三年以上でなければ課さぬ事になつて居る、これは生理上危險があるからである。これを自由と快樂とを缺くべからざる條件として居る所の遊戯に比べて見れば全く反対である事が明瞭である、遊戯の眞の意義を了解して居る者は決して之を遊戯中に加ふる事は爲し得ぬのである。

乍併體育上の事は看過すべきでない寧ろ幼稚園として大に攻考すべき重要な問題である。

三、合理的遊戯

「遊戯は活動其ものが享樂せらるゝものでなければならぬ」といふ詞は最も味ふべきである、前述したる如く表情遊戯を改むるも體育上の運動を加味するにしても此の詞より離れてはならぬ、迷ふこと勿れ、須らく遊戯の本質に立歸れ、今一般に其本義から遠ざかり行く、速かに立歸れ、と云ふより外はない。

此の意義によつて左記の注意が生れて來るのである。

(一)運動

イ、基本筋肉を動かせ而して出來得るだけ大きく口、幼兒は隨意の遊戯にのみ任せ置けば胸腹背横腹の筋肉を使用する事が極めて少ない、無意識の間に此等の筋を使ふ様に運動せしめねば均齊な發達は遂げられぬ、

ハ、脚を強くせよ、そは心臓肺臓を強くする所以である。

ニ、出來得る限り戸外に於てせよ、而して酸素を十分に得せしめよ。

(二)快感

氣分の快不快は生理上大なる差違あり。

イ、快き氣分は呼吸脈搏の變化、血管の擴大、運動の能率增加、消化力の旺盛を促すものである
ロ、基本筋肉の運動は快感を増す

ハ、運動感覺によつて快感を増す

ニ、音樂によつて快感を生ず、
ホ、室内的清潔と裝飾とによる

ヘ、保姆の氣分と容子は幼兒に快不快何れかの感

を與ふる有力なるものである。

即ち活動中の精神の愉快と之れに伴ふ運動とが具備せられて然も戸外に於てなさるならばその遊戯は實に其本義に合致したものである。

此の條件にあてはまつた遊戯が、面白き音樂により拍子よく運動をすれば、實に幼兒の喜ぶ所となる、しかも其運動が簡単で且幼兒の好む所の各種の運動が入れられたものであるならば、幼兒は無意識的に樂んでなす事が出来る。

今夏文部省の講習で致しました遊戯は此等の意味によつて作られたものの内を選んだのでした。

講習員の方があの酷暑に少しのゆるみもなく、尙進んで練習を要求せられたのは其熱誠も十二分であつたからであるが遊戯其ものと曲其れ自身とが快感を與へた事も妙なくないと思ふ

尙私の経験によれば小學の一年から六年迄課して然かも大なる喜びを以て持續されて居ます、そして遊戯の時間を樂しんで居るのです。これは主として運動と曲とによつて快感を與へらるゝのであります。

遊戯は元來爲す所のもの自身が樂しくて止められぬものでなければならぬ、決して見る爲めの遊戯であつてはなりません。

序に小學校の方面について一言申して見ませう
小學校の一二年は小學校令の示す所によると遊戯が主となつて居ります、從來家庭から直ちに来た兒童も幼稚園から來たものも一團として何等根據なき表情遊戯、行進、整列、競技位のものを定められた時間に行ふのである、それで一二年兒童の體育は如何にすべきやと云ふ問題は未だあまり攻究されて居らないと思ふ。

又上級の女兒には行進遊戯と名けてコチロン、カドリール、ランサー等の内にある事をあちら

こらから集めて新しき遊戯を組立て、曲は只節の數が合ふ様なものを擇んで、しかも見せる遊戯として兒童に課して居る、それで兒童は中々記憶に骨が折れて、樂しみは餘程熟練してから後でなければ得られぬ、而して暫くすると厭さが來てしまふ。

此如きものに重きを置いた學校の女兒に前に述べた遊戯を課して見ると殊に著しく興味が喚起されたことを感じました。



老嫗昔がたり

——大正六年八月某日記——

北野京二

何か昔の事を話せと仰せになるので御座いますか。その、昔の事……と申しますと、あゝ、左様で御座いますか、私共の育ちました昔と、私共の孫が幼稚園へ通つて居ります今とを、御比べになつて御座いますか。はい、それはもう、ものゝ六十年も経つて居りますことで御座いますから、何を申しましても随分な變り方で御座います。

ばかり昔流の読み書きを致させられました外には何一つ出来も致しませんのですもの、何の申上げる事が御座いましよう。

はい、いい……ええ、それでは折角の何で御座いますから、かう致しましては如何で御座いましよう。私は若い時から大變に繪が好きで御座いましたから、子供の時分から私がしょつちう見て居りました古本の挿繪や又は錦繪などを、いろいろと申しましても、そんな……昔の幼児の生活と幼児に對する其時代の人の考へ方……と仰せになるので御座いますか、どう仕りまして、そんな面倒な事は、無調法者の私共にはとても申上げられは致しません。いゝえ、若い時にほんの少し

□

私共の若い時には、よく『八十翁昔がたり』と云

ふ二冊もの、本を読みました。はい、其時分の事

□

を思ひ出しますと、何事もなつかしく存せられま
す……前歯で小さく咬み切つた紅唐紙べにとうしを、小
さい爪に受けて分らない字に貼りつけたり、挿繪
に紅をさしたりして、御しまひには此の御本をだ
いなしに致しまして母に叱られましたが、其御か
げで昔からの風俗の移り變りなどに、自然と氣を
付けるやうになりました。此の本は天保五年（今
から八十年前）の出版で御座いまして、これを書
きました新見傳左衛門と云ふ老人が其時に八十歳
と云ふので御座いますから、つまり享保の初め頃
に生れた人が寛延あたりの事を中心として、其見
聞を書いたもので御座いましょう。

いゝえ、飛んでもない、私が其眞似を致さうな
ど、云ふのぢや御座いません。私はたゞ子供の繪
を順に並べまして、「覗きからくり」の糸を、かたん
と引く丈けで御座います。口上だつて別に申すの
ぢや御座いませんのですから…………

「今川になぞらへて自らを戒むる制詞の條々……
」とすらくと申して参ります内に、昔のなつ
かしさが夢のやうに浮いて参ります。私共が子供
の時には毎日此の今川を讀ませられ書かせられた
もので御座います。其時用ひました本は、母が丹
誠な仁で御座いましたから、蟲にも喰はせずによ
く保存して御座いまして、此の通り今でも手許に
御座います。大變によごれて居りますけれど、此
の本は安永九年（今から百三十七年前）に出た『繪
本操節草ほんとうせきくさ』と申す二冊もので御座いまして、繪は有
名な鈴木春信が畫いたもので御座います。當節の
御若い方は滅多に御存じも御座いますまいから、
先づ其中で女の兒が手習や綾取りを致して居りま
す圖を御目にかける事に致しましよう（第一圖）。
此の繪にある一つの手本は「いろは」で御座います
けれども、もう一つのには「今川になぞら………
と書いて御座いましょう。手を取つて教へて居り

ます娘の軟らかみや、綾取りを致して居ります子供のしなやかさは、どんな名人でも春信に及ぶものが御座いますまい。



しかし男の兒と女の兒の遊びを書いた挿繪とし

て、勿論空前で御座いますが、恐らくは絶後と申しましても宜しいかと思はれますほどに美しい作は、『伊勢物語』二十三を

書いた西川祐信の繪で御座いましょう（第二圖）。此の祐信の挿繪のある『伊勢物語』は寶曆六年の出版で御座いますから、

第一圖



木春 筆繪本操節草

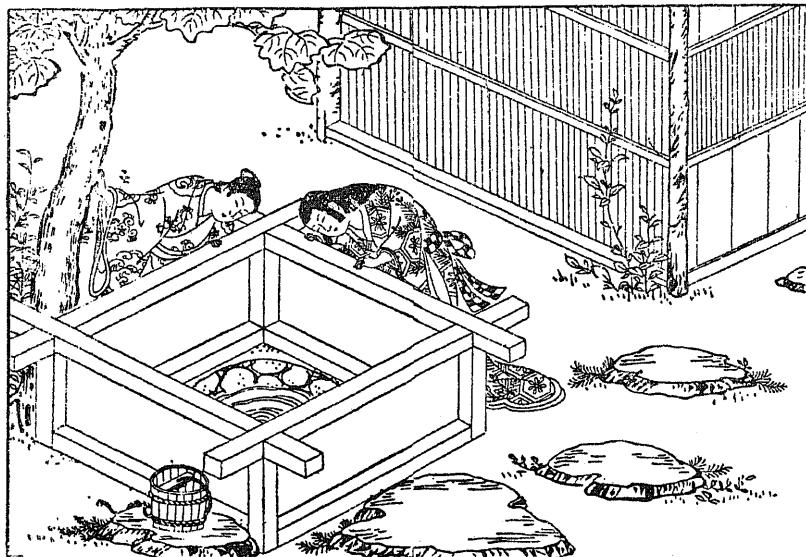
今から百六十年も前の事で御座います。此の繪は御承知の通り「筒井筒」の歌と「振り分け髪」の歌の主の業平と有常の妹の小さい時の遊びを書いたもので御座いまして、此の女の兒が後に「風吹けば沖つ白浪たつ山夜半にや君がひとり越ゆらむ」と咏んだ貞操な業平の内室になられた人で御座います。

一體此の繪を御覽になられた方は、餘りいろくと考へ過ごしを遊ばす事は禁物で御座います。例へば業平とか有常

の妹とか、筒井筒や振分
髪と云ふやうな、挿繪め
いた註釋ちみた個人に關
した事は御思ひにならな
いで…………えゝ、何と
申しましようか、つまり
…………その、人間全體と
云ふものを、子供を以て 第
代表して書きました繪と
して御覽に成つて、此の
畫面から麗らかに燐じて
来る美しい神々しい愛と
云ふものに共鳴なさらな
いといけません。……

何ですか御説教ちみた事
を申上げまして恐入りま
すが、つまり此の祐信の
繪は、餘り出來が良すぎ

圖二 第



西川信祐「伊勢物語」筆

まして挿繪の領分をつき
抜けたので御座います。
其證據に、もう一つ此
の筒井筒の繪を出します
から、よく比らべて御覽
遊ばしませ。表紙もなく
御終ひの丁も缺けて居り
ます爲めに、はつきりと
分りませんが、たしか元
祿前後の版の伊勢物語で
『傳受入伊勢』と見かへし
に題をつけた本が御座い
ます。是には菱川派の人
が挿繪を書いて居ります
が、其中から此の「筒井
筒」の繪を出して御目に
かけます。(第三圖)元祿

時代で御座いますから、

今から二百三十年も以前の事になります。今の祐

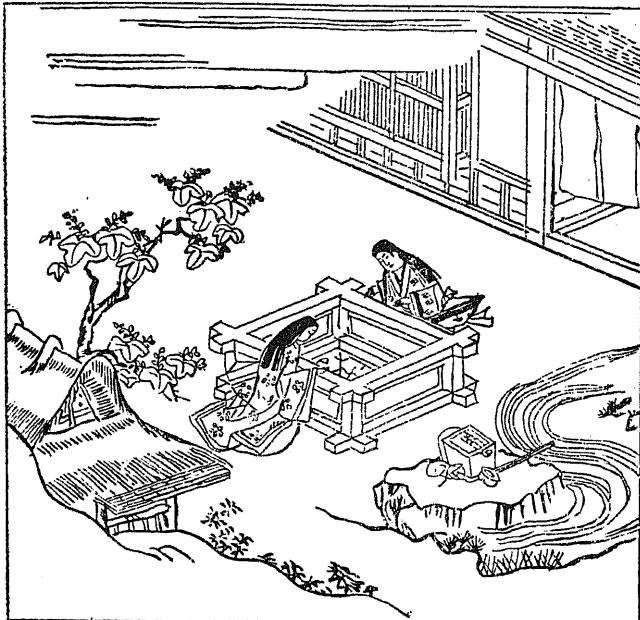
なります.....

信の繪とは六七十年も隔りが御座いますから、大

□

變に感じが違ひますで御
座いましょう。祐信の繪
には人間と云ふ大きな意
味がゆつたりと厚く一面
に行き亘つて居りますが
師宣派の繪は人形芝居の
やうに、人物がかたこと
くと小刻みに動いて居
りましよう。如何で御座
います。説明がくどすぎ
ると、餘り遠くから見
すぎた爲めに、人間の味
が薄く成つて了ひは致し
ませんか。

第三圖



菱川宣師筆伊勢語物語

此の祐信の原圖は縦七寸二分横一尺五分もあり
ますから、其まゝ翻刻致しましても立派な額面に

小町の繪を見まして、若い時にいろいろ描きました
た幻や空想などが、どうかしますと今でも私の胸

いろ／＼の傳説もありそれに又美貌と云ふ
事から、私共が若い時に口癖のやうに申しは
やして居りました小野
小町の繪が、どう云ふ
譯で御座いますが不思
議に私につきまとつて
居ります。これは子供
の繪とは丸で縁が御座
いませんのですけれど
も、何かの御参考にも
と存じまして態と申上
げる事に致しました。

を騒がす事が度々御座います。

其時分には小町を畫いた繪がいろ／＼御座いましたが、只今手許に残つて居りますのは、兼良卿の『歌林良材集』と云ふ歌書の挿繪丈けで御座います。しかもこれが一番の私の氣に入りの繪で御座いました。此の本の出來ましたのは、文明十三年（今から四百三十六年前）で御座いますが、私の習ひました本は延寶七年（今から二百三十八年前）に奥村政信の挿繪で、江戸の鱗形屋から出版されたもので御座いました。

此の本に出て居ります小町の繪は、よほど不思議な書き方で御座いましよう（第四圖）。顔の形に致しましても、七十年後の祐信のやうにふつくりした丸味がなく、師宣（政信）一流の西洋梨子のやうな變な恰好で御座います。姿に致しましても、百年後の春信などの畫風と違つて、しんなりした軟かみと云ふものがなく、いやにぎくしやく致して居ります。しかし凡そ抒情詩の挿繪として、人間

と自然との交感をこれ位率直に書き現はした繪が他に何處にあります………

此の繪の——女性の心と山川草木の心とが、恐ろしいほどに互に通うて居ります此の急所が、妙な空想的な感じを、若い時から私に起させたので御座いましよう。私は此の繪を思ひ出すと、すぐ柳が人に化けたあの三十三間堂のお柳の最後を思ひ出しました。又三十三間堂を思ひ出すとすぐ此の小町の繪を思ひ出しました。しかし………何と申しますよ、此の繪は柳の精とは反対に、人間の魂が樹の中にだんぐり入り込んで、しまひには樹に化けるので御座います。小町がびり／＼と神經を慄はせますと、櫻の枝がゆら／＼と動いて、梢の花がびく／＼と痙攣して居ります。如何で御座います、皆様にはさう御見えになりますか。

何ですか迷信ぢみた事を申上げまして恐入ります

□

す。何の所はどうか御遠慮なく御取り捨て遊ばして頂きます。それでは今度は御埋め合せと致しまして、元氣のよい御誕生の事を申しましよう。

御誕生の繪などは

今から考へて見ますと、いくらも見ました筈で御座いますが

一番面白いと存じて 第

居りますのは『義經

記』の元祿版(今から

二百三十年も前)の圖

四



やうな事まで、自分一人でどしどして居たやうで御座います。

それから變つて居て面白いと存じましたのは、

山東京傳の『あや

つり』と云ふ黄表紙にある御誕生の繪で御座います。

此の本は寛政五年

(今から百二十四

年前)の出版で、

京傳が「現在舞臺

上、前生樂屋高

因縁十二糸、忽引

南京操」と云ふ氣の利いた序を書い

すぐよたくと二足三足は歩むものと伺つて居りますが、此の繪で見ますと、辨慶は却々どうして

牛の籽所の騒ぢや御座いません。産婆の致します

て居ります。繪もやはり京傳が畫いたもので御座います。御承知の通り此の人は繪師としては北尾重政の弟子で、畫名を政演と申しました。上品な

錦繪なども書いて居ります

此の黄表紙は人間を南京

操りに致しまして、舞臺に

しつらへ、此の人間の善事

悪事を操る佛と鬼とが、結

城孫三郎一座の太夫のやう

に天井の樂屋で一々糸を引

いて居ります所を書きまし

たもので御座います。例の

善玉惡玉流の御定りの趣向

では御座いますけれども、

操りに致した所が一寸味が

變つて居りまして面白いと

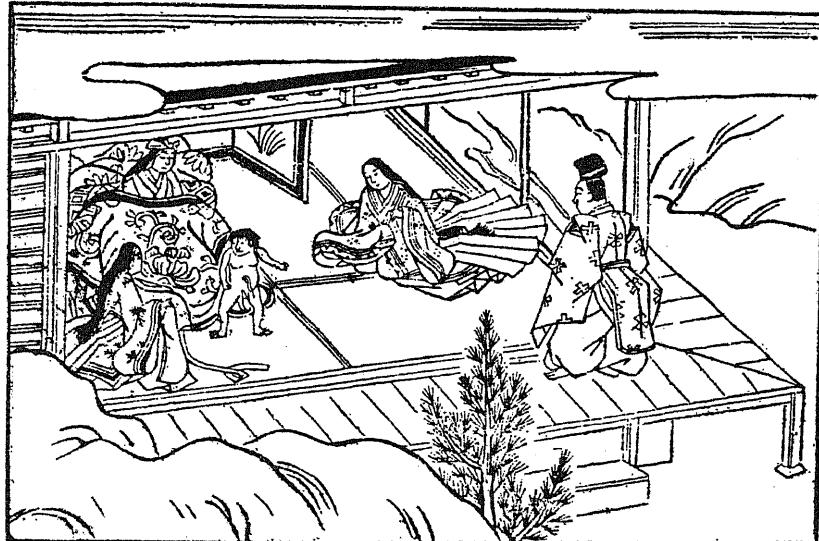
存じます。今其御誕生の圖

の樂屋内を御目にかけます

(第六圖)

此の繪の左に居ります佛
様は產婦を操つて居ります

第五圖



狩野義経筆「よき記」

ので、前の丁の舞臺の圖には此の佛様に操られて居る產婦が出て居ります右に立つて居ります佛様は、これから生れやうと云ふ赤ん坊を持つて居りまして、いざ御産と云つたらすぐこれを舞臺へ降さうと云ふ所で御座います。下界では未だ生れないのに、天上ではちやんと男の子が出来て居ります所が面白いぢや御座いませんか。寸善尺魔と云ふやうな事を、よく子供の時に御婆様に聞かされ居りました、妙に因縁

話の好きな私には、此の

黄表紙が堪らないほど面白う御座いました。おや
復、思はず知らず因縁話になりました……

□

今度はどう

ぞ、そちら様
から題を御出
し下さいます

やうに、はい、第

それを御受け
して……
と申しますと

大ざやうで御

座いますけれども、其御題

に就いて存じて居ります事

を何か申上げる事に致しましよう。は、子供の年
中行事で御座いますか……え、それにも

う挿繪も錦繪も澤山御座いましたとも……
子供の年中行事と申しませば、どう致しまして
もまあ兩大關

は雛の御節句
と端午の御節

句で御座いま
す。それでは

いろいろな歳
事記や隨筆な
どを引合せま

して、此の御
節句の繪を少
し御目にかけ
る事に致しま
しよう。

一體雛の人

形の元は、別に四季を定めずに、たゞの遊ばとし
て小さい人形を飾りまして、今の姉様遊び見たい



北尾政演筆「あやつりよしり」

な事を致しますのと、支那の年中行事を真似まして三月の上巳即ち初めての巳の日に身代りの人形即ち天兒^{あまがわ}を河に流して御祓をして其人の祝福を祈りますのと、二つあつたやうで御座います。そして、後世には、つまり此の人形の姉様遊びと紙人形の贋物^{あがもの}とが、

何時の間にか一

つに成つて、今日の桃の節句と申します御雛祭りに成つたものらくし思はれます。で御座いますから今日の御雛祭りは、遊戯と祭祀^{まつり}とが合併したんで御座いましょう。



菱川師宣筆

そして此の三月上巳が後に三月三日と變つたので御さいます。しかし三月三日が年中行事として特別に御雛様の日になりましたのは、即ち遊戯と祭祀^{まつり}が合併しま

姉様遊びの紙人形も古くから行はれたもので御座いまして、『枕草紙』にも『源氏物語』にも其他いろ／＼の古書に多く出て居ります。三月上巳の祓の紙人形に致しましてもやはり古くから有つた儀式で御座いまして、『源氏物語』の須磨の巻にも見えて居ります

したのは、すつ
と降つて天正頃

(今から三百四
十年も前) ちや

ないかと京傳の
『骨董集』などに

見えて居りまし
たが、如何なも
ので御座いまし
よう。

□

姉様遊びの人

形の繪は、私の
持ち合せ居ります本では、立圃が寛文十年(今か
ら二百三十四年前)に編みまして、奥村政信が挿
繪を致しました『おさな源氏』の紅葉賀の巻の繪が
一番面白いと存じます。しかしこれは今申しまし
たやうに、別格子供の年中行事を書いた繪と云ふ

圖)。



自讀歌註 より

譯ちや御座い
ませんから、
略して置きま
す。

それから天
兒卽ち板の紙
人形の繪とし
て上乘なもの
は、どう致し
ましても文明
十六年(今か
ら四百三十三
年前)の宗祇

の抄本『自讀歌註』を、師宣の挿繪で元祿頃(今か
ら二百三十年も前)に版行した三冊ものゝ内、上
巻の口繪に成つて居る繪で御座いましょう(第七

が流れて居ります。家の外には車と供人が待つて居ります。家の内には板の御使役らしい一人の女房がこれから車に乘らうと云ふ所で、一人は河へ

流す紙人形を捧げ、一人は此の儀式の主人公たる子供を抱いて居ります。すつと奥の方には御簾の裡に母の女御が見えて居ります……。

此の氣品のある挿繪の構圖は、何とも申されないほど雄大を極めたもので御座います。大切な小さい主人公を中心として、凡ての人物や建物の各部や器物や自然が、不思議なほど巧みに統一され居るでは御座いませんか。

□

今日の端午の御節句の起りと申しますのも、やはり隨分はつきり致しませんものらしう御座います。これにも、奈良朝・平安朝時代を中心と致しまして、支那に倣つて菖蒲や艾よもぎを祭つて御祝をした宮中及び一般の五月五日の節日と、武家時代頃から盛に成ったと思はれますが、菖蒲や艾の外

に胄や武具を飾りまして、後にはこれを主にしまして男の兒の御祝をした御節句と二通りあるやうで御座います。

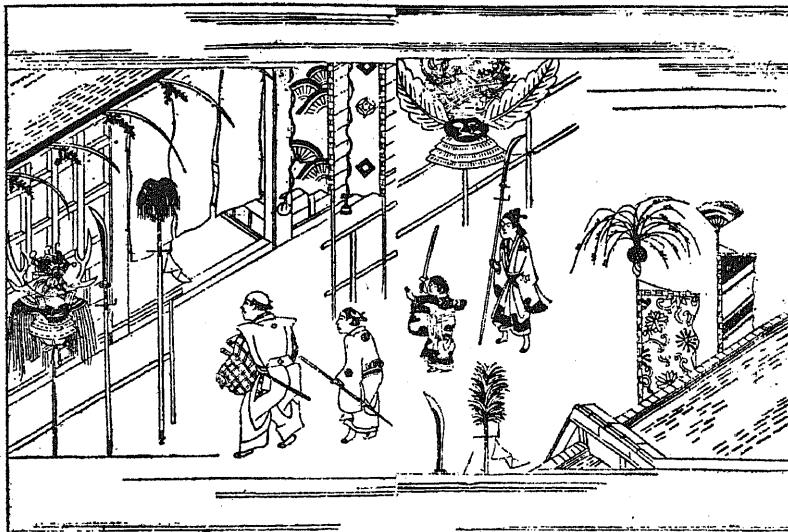
今日でこそ端午の御節句は男の兒の御祝ひのやうに成つて居りますけれども、明治六年に今日の大祭日が御取り極めになります前までは、やはり御正月や御盆のやうに一般の大祭日で御座いましたから、私共も存じて居りますが、江戸の町々では皆家業を休みまして、それはく大騒ぎで御座いました。

つまり菖蒲と艾を祭つた一般の祭日と、武器を飾つた男の兒の御祝とが、何時の間にか同居して丁つたと云ふ形に成つたので御座いますが、何時一般の御祝ひ日と云ふもの、中に、此の男の兒の御祝ひ日がまぎれ込んで参りましたものか、一向に分らないやうで御座います。

支那では端午の節日には菊や吳茱萸よしゆと云ふやうな香氣の高い薬草を祭つて禍を拂ひ福を祈つたと

伺つて居りますが、それが日本へ傳はりましてから、何時の間にやら菖蒲と艾に成つて了つたやうで御座います。『枕の草紙』などを見ましても、やはり此の草の香氣を述べて居ります。そして眞似と工夫で追々に菖蒲の縵ひんづらとか薬玉とか菖蒲酒とか粽とか菖蒲湯とか申しますやうなものを作つて参りましたが、つまり一般の祝ひ日としての五月の御節句は植物を祭つて人間を幸にすると云ふ事が主眼に成つて居るのです御座います。

圖 八 第



吉田半兵筆 派事記 より

所が武家時代頃からで御座いましょう。何時の中にやら此の日に武具を戸外に飾つて男の兒の御祝ひを致すやうに成つて参りました。此の武具を飾ります起りと致しまして、よく藤森縁起が引かれますけれども、どうもこれは歴史上の證據の無い事らしう御座いますから、餘り頼りにはなりません。鎌倉時代の本には胄の花(又は花胄)とか胄人形とか申しまして、胄の上に花や人形を乗せたものを五月五日に飾つた

と出て居るやうで御座いますから、或はかう云ふものが遺つて後に傳つたものかも知れません。

私の覚えて居ります挿

繪で、此の端午の御節句

を書きました古いものが二つ三つ御座いますから御目にかけましよう。ど

なたも御存じの貝原益軒

の『日本歲事記』は貞享五

年即ち元祿元年（今から

三百二十九年前）に出た

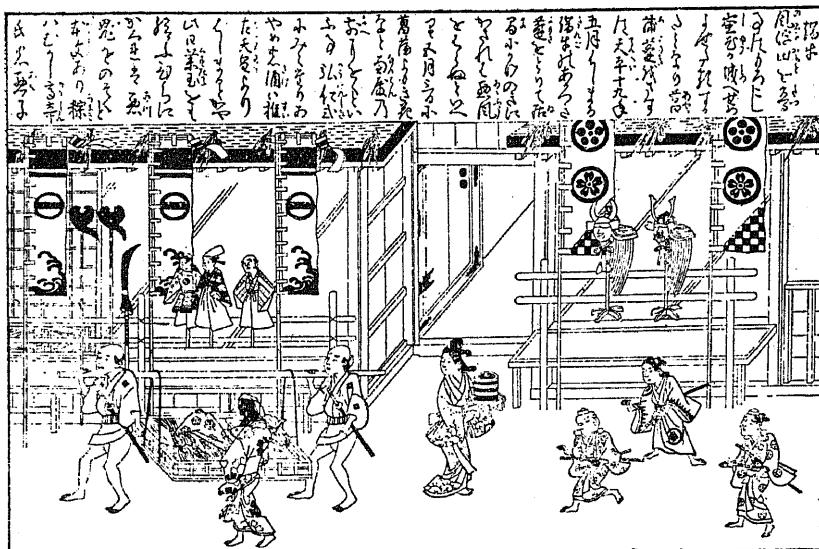
もので御座いますが、是

に吉田半兵衛派の挿繪が

ありまして、其中に端午

のが出て居ります（第八
繪圖）此の當時は御覽の

第一九圖



石流宣和大耕作繪抄より

通り軒に菖蒲と艾をさし、花冑や槍や長刀や旗印を戸外に飾り、子供も槍や長刀を持つて遊んで居たものと見えます。それから元祿頃に出ました石河流宣の『大和耕作繪抄』と云ふ繪本の中にも大變に面白い御節句の繪が御座います。第九圖を御覽になりますと、

胄や武具や旗印などの外に、武者人形もありますから、もう此の時分には胄ばかりでなく、人形も飾りましたものと見えます。山伏姿を真似した男の兒が遊んで居りますの

も、却々面白いと存じます。第十圖は御節句の勇ましい遊びを畫いたもので御座います。

これは印地討と申しま

して、村々又は町々の

子供が兩方に分れまし

て互に飛碟を打ち合ふ

と云ふあぶない遊びで

御座います。後にはこ

れが菖蒲打と名が變り

まして、菖蒲を編んで

しな／＼する鞭のやう

なものを造りまして打

ち合つたさうで御座い

ます。

兎も角も子供の年中行事としての端午の御

第十圖



石流宣作大和筆耕抄より

節句と申しますものは主に戸外に武具を飾つたり、亂暴な遊びを致したものと見えます。

徳川の後期や今日のやうに、家の内へ引込んで床の間や何かに小さい武者人形を綺麗に飾り立てたやうな女々しいものぢやなかつたらしう御座います。

□

年中行事でない一般的の子供の遊びで御座いますか。それは有り餘るほど澤山御座いますから、何を取り出して申上げてよいか自分で

も丸で見當が付きませ
ん。そしてこれは挿繪
よりも却つて飾繪の方
に面白いものが澤山御
座いますから………
左様で御座いますか、
それでは挿繪の中で一
寸變つて面白いやうな
ものを一つ二つ御目に
かけましようか。

第一十圖



石川豊雅派「水銀人形」

に入れます(第十一圖)。
此の繪を見ますと此の時
代の子供の屋内の遊戯が
誠によく分るので御座い
ますが、殊に面白いのは
此の繪の右の端に書いて
あります「水銀人形」で御
座います。

私は子供の時分から此
の機械の類が大好きで御
座いました、いろいろな
仕掛けを弄つて見ては樂ん
で居りましたが、此の繪
にある「水銀人形」の製法
は寛政五年(今から百二
十四年前)出版の『機巧圖
鑑』と云ふ本に精しく出
て居ります。私は子供な
ぞきからくり」と「水銀
人形」の繪を先づ御覽

がら此の本の序文が大變氣に入りまして、今でも

酌に依ては、「起見生心の一助ともなりなむかし」

此の本には、掛け時計

櫛時計、枕時計、尺時計

茶運人形、五段返、連理

返、龍門瀧、鼓笛兒童、

搖盃、鬪鷄、魚釣人形、

品玉人形などに亘つて、

大變に精しい解剖的の圖

解が澤山出て居ります。

その中の五段返りと云ふ

のが第十一圖にある「水

銀人形」の事で御座いま

す。此の人形の圖解は三

十圖にも亘りまして、大

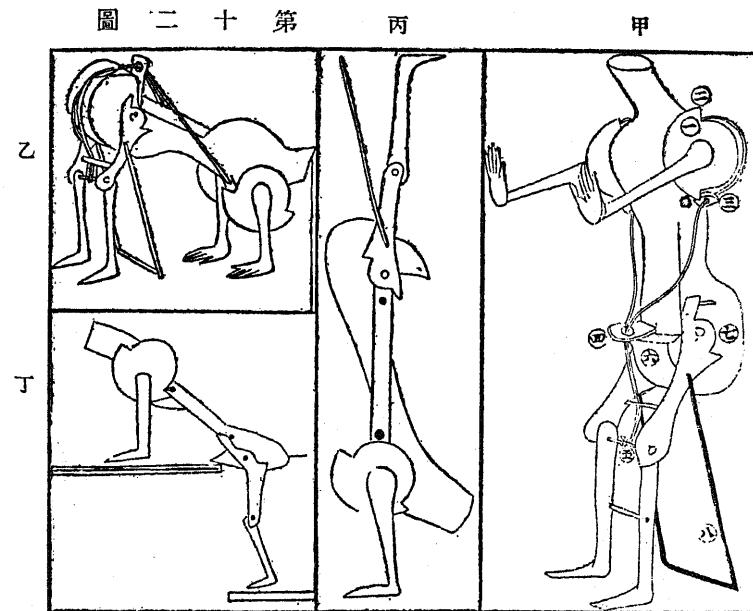
變に綿密に説明して御座

ります。大體は人形の胴

に仕込んである水銀の重

心に記憶し物に触れて
機轉を用ゆるを尊ぶ。
譬へば魚の水中に尾を
搖がすを見て柁を作
り、翅^{きぬ}を以て左右する
を見て櫛を製するの類
也諸葛亮孔明は妻の作
れる偶人を見て木牛流
馬を作意し、竹田近江
は小兒の砂弄りを見て
機關の極意を發明す。

此書の如き、更に兒戲に等しけれども、見る人の掛



機巧圖彙より

さで人形がつぎ／＼に轉倒して下の段に立つやう

になりますので、今其三
十圖の内から、四つばかり
り出して御目に掛かまし
よう。第十二圖の（甲）は
其の立つて居る所、（乙）
は後へ立つて手をついた
所、（丙）は逆立をした所、
（丁）は次の段へ降りる所
で御座います。

□

第 十 三 圖



西川祐人門人浮世漫畫より

本とやら申されて、大變
に貫目が落ちましたやう
に伺つて居りますが、昔
はやはりどう致しまして
も、『つれぐ草』が我邦
の論語とか申しはやされ
まして、まあ標準になる
読み物で御座いました。

御存じのやうにあの本の
初めの方に久米の仙人の
事が一寸書いて御座いま
す。私の持つて居りまし
た本には、狩野派の挿繪
のと、祐信の挿繪との兩
方御座いまして、兩方共
に此の久米の仙人が神通
力を失つて墜落致します
所が書いて御座いました

方を先きに申しましよう
只今では道徳觀の低い

殊に元禄三年版の狩野派の挿繪のある方が出来が

俗などがかなりよく分ります。

宜しう御座いました。洗濯をして居ります女も、ごく無邪氣な少女に成つて居りました、それに立木や石や河などが、狩野一流の古雅な簡素な筆づかひで、雲は模様風な形雲を二重線にして書いてありますので、大變に神々しい感じを起させました。所がこれと不調和に、仙人の墜落します形が遠近法から見ますと餘り無理に大きく書いてありますので、大變に滑稽に感じました。

どう致しましよう、大變に長い前置を並べまして……其癖せ本論はほんのぼつちりなんで御座いますよ。それではいよいよ久米の仙人の話をもうりました。一口嘶とこれを書いた挿繪とを一寸目にかけまして、これで今日は御免を蒙りたいと存じます。

……

この臥と娘が久米の仙人とどう云ふ風に筋を引いて居りますか、繪の上の方に其一口嘶が出て居りますから、御読み遊ばして下さいまし。しかし今時の方は、續けて書いた平假名は羅馬字よりも讀にくいと仰せになるさうで御座いますから、何なら活字に組み直して御覽に入れましょうか……

十三圖は寶曆十三年(今から百五十四年前)に出ました『浮世漫畫』と云ふ軽い本にある繪で御座いますが、これで當時の子供の風遊びと若い娘の風

朝鮮幼兒保育苦心談

京口さだ子

私は今朝鮮の京城幼稚園に勤務いたして居ります。京城幼稚園は大正二年四月一日に創めて開園いたしましたので、主にも兩班（朝鮮にて文武の官吏となることを世襲せし家柄）の子弟をあづかつて保育して居ります。職員は私の他に日本婦人一人と朝鮮婦人一人とであります。

私は朝鮮に渡ります前には、常盤幼稚園に居りまして、相應に苦心致したつもりで居りましたが朝鮮に渡りましてからの苦心に較べれば物の數でも御座いません。

先づ通園児の大部分を占めて居る兩班の家庭は非常に保守的でありまして、家庭といふ家庭は外部との交渉を殆んど絶して居るのであります、それ故幼稚園の存在などを家庭では知らないので

あります、又知つてゐたにせよ、其必要を悟るだけに朝鮮の主婦達は啓發されて居ないので有ます。

それでも開園した年には二十五人の幼兒が集まりました。翌年は二月頃になつたらそろ／＼入園願書が出て來ること、思つてゐましたが、一向その模様がありません。三月になつても、なかなか集つて來ません。私は心配になりますので、朝鮮人の事務員に聞いてみますが、何うも何時まで待つても入園希望者が出て來さうもありません。

一體京城幼稚園はその頃官立の京城高等女學校の構内に設けられて居りまして、女學校の校長さんが名譽園長を兼ねてゐて下さいました。それで私は校長さんとも相談して、俾へ乗つて各家庭を訪問し、幼兒入園の勧誘をすることに致しました。

京城幼稚園は創立委員が百名以上あります、これが皆朝鮮人であります、この創立委員の子孫だけでも京城幼稚園は一ぱいになつて了ふ筈なのであります。しかし是等の創立委員は創立委員とはなられたものゝ自分達の幼兒を托することに就ては又別の意見を持つて居られるのであります。

とにかく、私は通譯を一人伴うて、兩班の内房を訪れて歩いたのであります。するともう頭から剣もホロゝの挨拶をする所があります、そんな必要はないと言つて戸を締めて了ふ所があります。まことに「幼稚園とは何か」と訊かれるのであります、私はホツとして、通譯を通じて出来るだけ分り易く幼稚園の説明をして聞かせます、しかし大抵老人が不承知を唱へるから子供を入れさせることだけはおことわりだと言はれます。又そんな幼い子に何が出来るものか、まだ七才ぢやないか、七才ばかりの子が何を覺えるものかと言つて一笑に附して了ふ所もあります。何處へ行つて

も、宛然物貰ひか餘計なお世話焼きにでも來たやうに扱はれます。十軒歩いて、やつと一人位、それでは入園させて見やうといふ家庭がある、私は飛立つうれしさで入園願書に捺印して貰ひます、しかしこの承諾した家庭から四月になつて實際に幼兒が來ないのが澤山あります。この時分の私は實に頼りない、前途に光明のない、ものがなしい心持で、来る日来る日を迎へなければなりませんでした。而して内地にゐた頃には幼兒過剩のためにおことわりするのに困つた身が今は幼兒一人を得ることがお金の千圓も貰ふよりもうれしいとは何たる相違でせうとしみぐなさけないやうな氣も致しました。

這麼風な頗る覺束ないスタートを切つた京城幼稚園も翌大正三年には五十六人許の幼兒を收容するやうになりました、而して何うやら前途の見込みも立つらしく見受けられました、而して同年の五月には一萬圓を投じて新築した現在の園舎が落

成することになりました。

朝鮮人側の希望としては、満八才から小學校へ入學させるので、その時までに日本語を一通り用が足りるだけ覚えさせて貰ひたいと言ふのであります。これは朝鮮の教育に熱心な家庭にとつては切實な實際問題でありまして、幼兒に一日も早く日本語を習はせ、日本語で勉強させたいと望んで居のであります。それ故私の幼稚園では主智主義に偏するといふ批難は覺悟のまゝで、一生懸命に國語を教へ込んで居ります。

それから家庭との連絡を取るために、毎日保育を終つてから、幼兒の家庭を訪問いたします、而して母親達に「一度幼稚園へ来て見て下さい」と勧めてみますが、「まだ戸外へ出たことがないから」と言つて、却々オイソレと出て来ません。それでも、さんざ口を酸くして勧めると、それでは行つてみやうかと遙々幼稚園へも来るやうになりました。而して來てみれば可愛い子供が澤山ゐて、

いろいろな遊戯を樂しげにやつてゐるので、滅多に外出したことのない朝鮮婦人には實にめづらしく、おもしろいのであります。而して、先生が鞭で打たないのに、何うして子供があんなによく言ふことを聞くかと不思議がります。朝鮮の家庭では鞭で幼兒を育て、行くと言つても過言でない程に何處の家庭にも窓の上のところには必ず鞭が掛けけてあります。而して一寸でも言ふことをきかないビシリヤリと來ます。それで子供は馴れつこになつて了つてゐますから、鞭で打たれるまでは言ふことをきかないことに何時か心の中で決めて了ふ、兩親はそれ故鞭なしには子供を導くことは出来ないやうに考へて居るのであります。然るに幼稚園へ来てみると、大勢の子供が先生の言ふことをよくきいて、先生の自由になつてゐます。朝鮮の母親達は先づこれに感心して了ふのであります。

私は何時も子供に「先生の眼を御覽なさい」と言つて居ります、悪いことをすれば睨んでやります。

善いことをすれば微笑してやります。これで十分です。

私の心は子供の眼を通して子供の心のなかに入つて行きます。それ故私に見られた子供は、私の眼だけを見ることによつて、私の心持を察することが出来るのであります。私は朝鮮の母親達に子供達は私の眼を見るとよくいふことをきくのですと話してやります。

現今では幼稚園と家庭との關係は非常にうまく行つて居ります、家庭からは寧ろうるさい位に幼稚園へ參觀に來てくれます。又子供の誕生日だ祖父さんの供養日だと言つて、家庭からも頻繁に招待を受けます、而して五度に一度位は出席しますと朝鮮特有の臭いお料理や何かを出して款待してくれます。

一體、朝鮮といふところは男女の差異の甚しい所で、男は相當に日本趣味なぞもあり、隨分ハイカラな、啓けた人もありますが、女は全然深窓の

裡に在つて世間の様子をチツとも知りません、朝鮮では婦人と老人とは極端に蒙昧であります。

兩斑の幼児などといふと太したもので、大抵附添が三人位附いて居ります、さうして何でも言ふなり次第に我儘を通させて居ります、頭を打たせろと言へばハイといつて打たせると言つた調子です、から我儘勝手この上なし、自我の念が著しく發達してゐる代りに、他人といふものを全然認めません、誰でも自分の附添同様に心得て居ります。それで幼兒同志が喧嘩をすると附添が又低能ですから止めやうはしないで、自分の主人たる幼兒に味方して他の幼兒を打たうとする、先づ斯ういつた調子ですから、却々大變です。

まあ、それでもいろいろ面倒を見て、開園してから三年目の大正四年には九人の卒業者を出しました。その内男一人と女一人が日本人の小學校へ入學しましたが、二人とも非常に出來がよく、優等生をつゝけて居ります。その他の卒業生は國語

がまだ十分でなかつた爲めに朝鮮人ばかりを集め
て教へる方の普通小學校へ入學いたしました。

大正五年には十一人の卒業生があり、その内二
人が普通小學校へ行き、他の九人は皆日本人の小
學校へ入れました。

大正五年にはもう私は家庭を訪問して、幼兒の
入園を勧誘して歩くことを止めた、大丈夫で
せうかと怪ぶむ人もありましたが、私は全然行か
ぬことにいたました。さうしたら、案の定、四十
人といふ定員だけの幼兒が入園を申込んで來まし
た。本年は九人の卒業生を出しました、内三人——
——男二人、女一人——が日本人の小學校へ入學し、
他のものは普通小學校へ行きました。尙又本年の
入園兒は五十名でありまして、侯爵家からも二人
來て居ります。來年からは愈々入園兒に就ての心
配は要らないと思ひます。これで朝鮮に於ける保
育事業も何うやら、その緒に就いたと言ふもので
あります。(未完)

▲ 投 稿 歓 迎 ▼

○ 保育に関する研究、實驗、統計等一切

○ 各地幼稚園の景況

○ 幼兒生活のスケッチ

○ 讀者諸氏の御近況、御感想、御抱負其他

以上各種の投稿を歓迎す

一、用紙隨意、成るべく二十二字詰に認められたき
こと

二、誌上匿名を希望せらるゝ方も原稿には本名を附
記せられたきこと

三、封筒の上には「婦人と子ども寄稿」と朱書きされ
れきこと

四、宛名は東京府下代々木山谷一二四倉橋惣三宛に
せられたきこと

五、原稿の採否は當編輯部の意志に一任せられたき
こと

定 稿 規 定

貝 拾 ひ

ヘ調四分ノ四

4 6 4 3 4 3 2 3 0 2 2 2 3 4 3 6 0	サ サ エ ニ ハ マ グ リ マ テ ニ シ ア ハ ピ
4 6 4 3 4 3 2 3 0 4 3 2 6 0	ア サ リ ャ ア カ ガ ヒ ホ ラ ポ テ ガ ピ
4 6 4 3 4 3 2 3 0 6 6 4 3 4 3	ウ ミ ニ ハ カ ヒ ガ ヒ イ ロ イ ポ バ ル

第一十四回 京阪神三市聯合 保育會提出遊戯及歌曲▼

京都 市 保 育 會

貝 拾 ひ

(準備)
(貝ヲ拾フモノ中心ニ入り蹲踞ム)

さゝえに蛤、まで、にし、鮑

(兩手ヲ繋キ行進ス)

あさりやあかがひ

(圓ノ中心ニ向ヒ進ム)

ほら帆立貝

(元ノ位置ニ戻ル)

海には貝がいろ／＼ござる

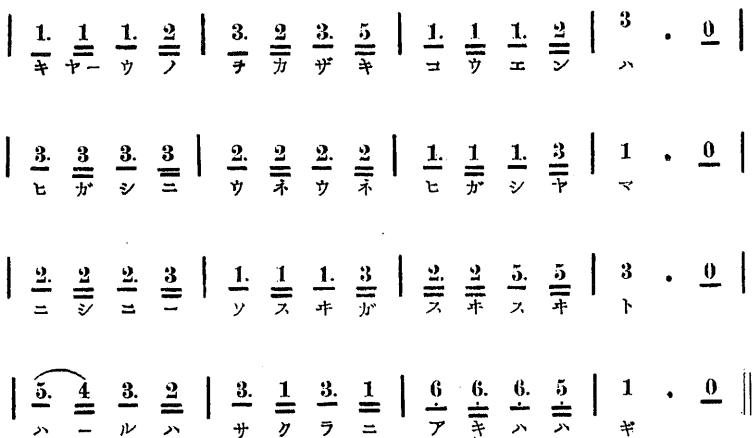
(拍手)

歌の終るを合図に圓形のものは(サミノー)と稱へつゝ逃げ捕へられ

人とする時貝の名を言ひて蹲踞む

岡崎公園

ハ調二拍子



一、京の岡崎公園は、東にうね／＼東山、西に疏
水がすい／＼と、春は桜に秋は萩

二、赤い御殿が大極殿、高いお屋根が公會堂、博
覽會や、圖書館や、僕等のすきな動物園

三、そこには虎やライオンや、熊の相撲に象の鼻、
孔雀の羽根もうつくしくお猿の木登りおもし
ろや

岡崎公園

(準備豫メ二人ツ、組合ヲ定メ之ヲ一列圓陣ニ作ル)

一、京の岡崎公園は

(両手ヲ繋グ)

東にうねく東山

(両手ヲ繋ギシマ、前後ニ振り山ノ形ヲナス)

西に疏水がすいと

(両手ヲ繋ノモノト両手ヲトリテ一周ス)

春は櫻に秋は萩

(組合ノモノト両手ヲトリテ一周ス)

二、赤い御殿が大極殿

(敬禮)

高いお屋根が公會堂

(両手ヲ高ク舉グ)

博覽會や圖書館や

(右向行進)終リテ圓心ニ向フ

僕等のすきな動物園や

(右へ一步左へ一步ヨル)終リテ両手ヲ腰ニトル

三、そこには虎やライオンや

(上半身ヲ左右ニ動カス)

熊の相撲に

(右へ一步左へ一步ヨル)終リテ両手ヲ腰ニトル

象の鼻

(両手ヲ握リ掌ヲ下ニナシ左右ヲ拗ヘ前方ニ延シ象ノ鼻ノ形ヲナス)

孔雀の羽根もうつくしく

(両手ヲ左右ニ開キ上舉孔雀ノ尾ヲ擴ケル形ヲナス)

お猿の木登り

(両手ヲ繋グ)

おもしろや

(足ヲ交互ニ蹴出ス)

雜錄

○中川前會長を送り

湯原新會長を迎ふ

中川謙二郎氏は過般東京女子高等師範學校長の職を辭せらるゝと共に、本會々長を辭せられ、新任東京女子高等師範學校長湯原元一氏本會の推舉によつて、新に本會々長となられたり。

中川前會長を送るは本會の最遺憾とする處なり實に本會が前會長に負ふ處のもの甚だ大にして、爲に本會の發展を加ふこと渺少ならず。加之、中川氏が幼稚園教育そのものに關して充分の理解と好意とを有せられ、我國に於ける斯の教育全般の爲に多大の注意を拂はれ、其の進歩發達の爲に心を用ゐらるゝ處ありしは人のよく知る處にして彼の幼稚園關係者大會の開催の如き、氏の企畫盡力の訓辭あり、聽講者百二十餘名、學科及講師は前による處最大なりしなり。實に吾人は、之を大に

しては我國幼稚園教育全體の爲めに、之を小にしては我フレーベル會の發展の爲に、中川氏の力によらんとする處のもの、頗る多かりしなり。しかも今にして本會々長を辭せらるゝ誠に遺憾に堪えざるを思はざるを得ず之れ實に本會の大いなる損失といふべきなり。たゞ新會長湯原氏を迎ふるあり。以て此の損失を補ひ、以て吾人の遺憾の情を慰せんとす。即ち吾人は本會の發展の爲に、我國幼稚園全體の改善進歩の爲に、前に中川氏によつて期特せし處のものを以て、之を湯原氏に於て期待し、又其の期待の必ずや空しからざるを信せんと欲するなり。

○文部省保育講習會

文部省主催保育講習は既報の如く八月一日より同十日迄東京女子高等師範學校に於て開催せられたり、開會式には文部大臣代理赤司普通學務局長の訓辭あり、聽講者百二十餘名、學科及講師は前號所報の如し。

会 告

- 會費御拂ひ込みの節は名前は初め御入會の時御名前へと御同一になし下され度く、假令ば初め幼稚園名にて御入會、後個人の御名前にて會費御拂込み等のことなき様必ず願上候。整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候。
- 會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左様御含み置願候。
- 會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候
- 萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

本誌定價

一冊 郵稅共金拾參錢 六冊前金郵稅共七拾貳錢
拾二冊 同金壹圓四拾四錢 郵券代用一割增

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内フレーベル會事務所宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々木山谷一二四倉橋惣三宛

大正六年九月五日印刷納本
大正六年九月五日發行

編輯兼發行者 東京府豊多摩郡代々木村大字代々木山谷一二四

印 刷 者 東京市本所區番場町四番地
守 橋 惣 三

印 刷 所 東京市本所區番場町四番地
凸版印刷株式會社本所分工場

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
發 行 所 フ レ 一 ベ ル 會

初めて園入り児幼に平易で適切な

大正六年一度第案考

花とり競争

定價金一圓五十錢

遊方、

松竹梅、櫻、菊楓の形を(板にて)八寸の大きさに切抜き、特有の色を以て彩色したるもの遊嬉室に配つて置て一方で先生が大きな獨樂(六角に削てあつて右の六)を廻し止た時に現れた(櫻が出れば櫻處へ速かに行た方が一番といふのであります、その間幼兒は互に梅とか櫻とか好むところを唱へつゝ待て居るのであります)

教育的價值

沈着と敏捷、獨樂の止る瞬間には最も沈着にして正しく出たものを視分なくてはなりません

視分が付たなれば、最も敏捷に目的の處へ間違ぬ様に行かなくてはなりません

此處で

視覺の練習にもなり同時に植物の名稱を覺る事が出來ます

東京九段

電話番町二九〇〇九
振替東京一九六四〇

フレーベル館

最嗜味多き運動具